

建築・土木分野

1. 分野の概要

建築・土木分野では、住宅、建築、都市、国土、そして地球環境に至るまでさまざまな生活空間の安全・安心および快適性を追求し、それを実現するための考え方や建築・空間デザイン技術、土木技術を学ぶ。本分野は次の2つのコースから構成されている。

・建築学コース

建築学コースは、建築における安全性や生活上の安心、そして快適な環境を実現するために、設計から施工まで総合的な技術力をもったエンジニアを育成する。

・土木工学コース

土木工学コースは、地球環境を考えたまちづくりを目指し、安全・安心、快適な生活を支えるための社会基盤を整備するエンジニアを育成する。

各コースはそれぞれ核となる専門科目を持ちながらも、関連した専門科目を共有している。

1年次においては教養科目や概論科目、専門共通科目を中心に履修することによって幅広く工学技術者としての基礎的素養を身につける。2年次以降はいずれかのコースを選択し、分野専門科目、さらにコースの特徴を色濃く有したコース専門科目を履修していく。

建築・土木分野では、専門知識を基軸に幅広い教養と想像力、実践力を養うことによって、良好な生活環境を形づくることを通して社会に貢献できる人材を養成する。

なお各種資格についての詳細は、コース別に後述しているので参照されたい。

《建築学コース》

2 - 1. コースの概要

建築学コースは、建築構造、材料、施工、環境、設備、計画、デザインなどを学び、建築物が実現に至る技術を総合的に修得し、さらにこれらの専門知識を実務に応用できる能力を養う。また実験・実習を計画的に行い、その結果を分析・整理する能力や、建築工学や設計の知識を統合して課題を解決し、その成果をまとめる能力を養う。

2 - 2. 卒業要件

卒業要件として、教養科目32単位以上、専門科目80単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。卒業要件に関する内訳を、表2 - 1と表2 - 2に示す。

表2 - 1 教養科目の卒業要件

区分	卒業要件単位数	分野	内 訳 等
教 養 科 目	32 単 位 以 上	4 単位以上	建学の精神に関わる科目
		8 単位以上	人文・社会科学
		8 単位以上	自然科学
		10単位以上	外国語
		2 単位以上	健康・スポーツ科学
		－	海外研修
		－	教養ゼミ

※日本語初級者と日本語中級者の判別は次を目安とする。
 中級：日本語能力試験のN1を取得、または日本留学試験の日本語の試験で「読解・聴解・聴読解」が300点以上かつ「記述」が40点以上
 初級：上の条件を満たさない場合

表2-2 専門科目の卒業要件（建築学コース）

分 野 等		要 件 単位数	科 目 の 内 訳 等				
			コース摘要	要 件 単位数	科 目 名	単位数	配置 年次
専 門 科 目 計 80 単 位 以 上	概論科目群	4 単 位 以 上	概論科目群 選択必修科目	2 単 位 以 上	創生工学概論	2	1前
					建築・土木概論	2	1後
			概論科目群から自由選択				
	専門共通科目群	15 単 位 以 上	専門共通科目群 選択必修科目	2 単 位 以 上	コンピュータリテラシー	2	1前
					コンピュータサイエンス入門	2	1後
			専門共通科目群 必修科目	10 単 位	課題研究	2	3後
					卒業研究 A	4	4前
					卒業研究 B	4	4後
			専門共通科目群から自由選択				
	分野、コース専門科目 (他分野の専門科目を含む)		コース必修科目	9 科 目 20 単 位	構造力学Ⅰ	3	2前
					建築材料基礎	2	2前
					建築計画Ⅰ	2	2前
					建築環境学Ⅰ	2	2前
					建築設計製図Ⅰ	2	2前
					構造力学Ⅱ	3	2後
					建築施工	2	2後
					建築設備	2	2後
					建築設計製図Ⅱ	2	2後
			専門科目からの自由選択				

2-3. 卒業研究着手条件

卒業研究A及び卒業研究Bを履修するためには、卒業に必要な科目に関して、以下の項目を満足しなければならない。なお、編入生、転入生については、別に定める。

- (1) 教養科目を24単位以上修得していること。
- (2) 専門科目を64単位以上修得していること。
- (3) 専門共通科目群から、「課題研究」を修得していること。
- (4) 教養科目と専門科目を合計して98単位以上修得していること。

カリキュラムマップ
建築・土木分野専門科目(建築学コース)

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
概論科目	創生工学概論	機械概論 電気電子概論 システム情報概論 建築・土木概論						
専門共通科目	フレンジュメンゼミⅠ コンピュータリテラシー 風力発電工学概論Ⅰ	コンピュータサイエンス入門	Webデザイン 応用物理学Ⅰ 応用物理学Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ					
分野専門科目 (建築学コース)		地域DX化教育プロジェクトⅠ 建築基礎製図Ⅰ	地域DX化教育プロジェクトⅡ 建築設計製図Ⅰ 建築計画Ⅰ 歴史意匠 建築環境学Ⅰ 構造力学Ⅱ(3) 建築材料基礎 建築表現基礎	地域DX化教育プロジェクトⅢ 建築設計製図Ⅱ 建築計画Ⅱ 住居計画 建築設備 構造力学Ⅲ(3) 建築施工 建築法規	キャリアデザインⅠ インターンシップ 地域DX化教育プロジェクトⅣ 建築設計製図Ⅲ 都市設計 建築環境学Ⅱ 環境デザイン学 鉄筋コンクリート構造 鉄骨構造 木質構造 防災工学 建築基礎構造 建築材料 建築実験Ⅰ 建築基礎力学	知的財産関係法規 技術者倫理 情報化社会と情報倫理 課題研究 建築設計製図Ⅳ	卒業研究A(4) 設備製図 構造製図 施工製図	卒業研究B(4)
(総合科目)								

学修・教育目標と科目の関係
建築・土木分野専門科目(建築学コース)

学修・教育目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
① 幅広い視野と技術者倫理の涵養	創生工学概論 風力発電工学概論 システム情報概論 建築・土木概論	機械概論 電気電子概論 システム情報概論 建築・土木概論			技術者倫理 情報化社会と情報倫理		知的財産関係法規	
② コミュケーション能力および表現力の涵養		建築基礎製図 建築基礎製図II 建築設計製図II 建築設計製図III 建築実験I 建築実験II 建築土木特別実習 キャリアデザインI キャリアデザインII					設備製図 構造製図 施工製図 卒業研究A 卒業研究B	
③ 自然科学の理解	コンピュータグラフィ コンピュータサイエンス入門	Webデザイン 応用物理学I 応用物理学II 応用数学I 応用数学II						
④ 専門知識の確実な修得と実務に応用できる能力の修得		建築計画I 歴史意匠 建築環境学I 構造力学I 建築設備 構造力学II	建築計画II 住居計画 建築環境学II 環境デザイン学 鉄筋コンクリート構造 鉄骨構造 木質構造 防災工学 建築構造力学					
⑤ 積極性と自己学修の習慣	フレッシュマンゼミ	建築表現基礎 構造力学I 構造力学II	建築材料基礎 建築施工 建築法規			建築基礎構造 建築材料 福祉環境学 建築数値解析	卒業研究A 卒業研究B	
⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成		地域DX化教育プロジェクトI 地域DX化教育プロジェクトII	地域DX化教育プロジェクトII 地域DX化教育プロジェクトIII 地域DX化教育プロジェクトIV		インターンシップ 課題研究		卒業研究A 卒業研究B	

必修科目
選択必修科目
選択科目

2 - 4. 教育課程表

表2-3 建築・土木分野 建築学コース 専門科目教育課程表

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								適 要 ※ 1	教職課程※ 5			
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次						
				講 義	演 習	実験・実習	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期					
学 科 専 門 共 通 科 目 群	概論科目群	創生工学概論	2	○			2								概▲		◇		
		機械概論	2	○				2									◇	◇	
		電気電子概論	2	○				2									◇	◇	
		システム情報概論	2	○				2									◇	◇	
		建築・土木概論	2	○				2								概▲	◇	◇	
	専門科目群	フレッシュマンゼミ	1		○		2												
		コンピュータリテラシー	2	○			2									専共▲	◇	◇	◇
		コンピュータサイエンス入門	2	○			2									専共▲	◇	◇	◇
		Webデザイン	2	○				2										◇	◇
		応用物理学Ⅰ	2	○				2										◇	
		応用物理学Ⅱ	2	○					2									◇	
		応用数学Ⅰ	2	○					2							※ 2		◇	
		応用数学Ⅱ	2	○					2							※ 2		◇	
		技術者倫理	2	○							2							◇	
		キャリアデザインⅠ	2	○							2								
		キャリアデザインⅡ	2	○								2							
		インターンシップ	2			○										※ 3			
		情報化社会と情報倫理	2	○								2							◇
		知的財産関係法規	2	○									2					◇	
		課題研究	2		○							2				○			
		卒業研究 A	4		○								4			◎			
		卒業研究 B	4		○									4		◎			
		風力発電工学概論	1	○			1									※ 3			
		地域DX化教育プロジェクトⅠ	1		○											※ 7			
		地域DX化教育プロジェクトⅡ	1		○											※ 7			
		地域DX化教育プロジェクトⅢ	1		○											※ 7			
		地域DX化教育プロジェクトⅣ	1		○											※ 7			
		検定情報MWS	1													※ 4			
		検定情報MWE	2													※ 4			
		検定情報ME S	1													※ 4			
		検定情報ME E	2													※ 4			
		検定情報MP P	1													※ 4			
		検定情報MA S	1													※ 4			
	検定情報MO L	1													※ 4				
	検定情報ⅠⅠ P	1													※ 4				
	検定情報ⅠⅡ G	1													※ 4				
	検定情報ⅠⅢ E	2													※ 4				
	検定情報ⅠⅣ P	4													※ 4				
	検定高度情報処理	6													※ 4				
分 野 専 門 科 目	建築・土木分野（建築学コース）	建築基礎製図	1			○		2									◇		
		建築設計製図Ⅰ	2			○			4							▲		◇	
		建築計画Ⅰ	2	○					2							▲		◇	
		建築環境学Ⅰ	2	○					2							▲		◇	
		構造力学Ⅰ	3	○	○				4							▲		◇	
		建築材料基礎	2	○					2							▲		◇	
		建築表現基礎	2	○					2									◇	
		歴史意匠	2	○					2									◇	
		水理学Ⅰ	3	○	○				4							※ 6		◇	
		測量Ⅰ	2	○					2							※ 6		◇	
		土木基礎実験	2			○			4							※ 6		◇	
		建築設計製図Ⅱ	2			○				4						▲		◇	
		建築計画Ⅱ	2	○					2									◇	
		住居計画	2	○					2									◇	
		建築設備	2	○					2							▲		◇	
		構造力学Ⅱ	3	○	○				4							▲		◇	
		建築施工	2	○					2							▲		◇	
		建築法規	2	○					2									◇	
		水理学Ⅱ	2	○					2							※ 6		◇	
		土質力学	3	○	○				4							※ 6		◇	
		土木計画	2	○					2							※ 6		◇	

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								適 要 ※ 1	教職課程※ 5		
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
				講 義	演 習	実験・ 実習	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
分 野 専 門 科 目	建 築 ・ 土 木 分 野（建築学コース）	コンクリート材料	2	○					2					※ 6		◇		
		測量Ⅱ	2	○					2					※ 6		◇		
		数値処理	1		○				2					※ 6			◇	
		建築設計製図Ⅲ	2			○					4					◇		
		都市設計	2	○						2						◇		
		建築環境学Ⅱ	2	○						2						◇		
		環境デザイン学	2	○						2						◇		
		鉄筋コンクリート構造	2	○						2						◇		
		鉄骨構造	2	○						2						◇		
		木質構造	2	○						2						◇		
		防災工学	2	○						2						◇		
		建築実験Ⅰ	2			○				4						◇		
		地盤工学	2	○						2				※ 6		◇		
		道路工学	2	○						2				※ 6		◇		
		土木構造力学	2	○						2				※ 6		◇		
		コンクリート実験	2			○				4				※ 6		◇		
		土木施工	2	○						2				※ 6		◇		
		土木法規	2	○						2				※ 6		◇		
		測量実習Ⅰ	2			○				4				※ 6		◇		
		土木応用数学	2	○						2				※ 6		◇		
		建築設計製図Ⅳ	2			○					4					◇		
		建築構造力学	2	○						2						◇		
		建築基礎構造	2	○						2						◇		
		建築材料	2	○						2						◇		
		建築実験Ⅱ	2			○				4						◇		
		福祉環境学	2	○						2						◇		
		建築数値解析	2	○						2						◇		
		上下水道工学	2	○						2				※ 6		◇		
		水理・土質実験	2			○				4				※ 6		◇		
		交通計画	2	○						2				※ 6		◇		
		土木設計製図	2			○				4				※ 6		◇		
		測量実習Ⅱ	2			○				4				※ 6		◇		
		G I S	1		○					2				※ 6		◇		
		設備製図	2			○						4				◇		
		構造製図	2			○						4				◇		
		施工製図	2			○						4				◇		
		土木C A D	1		○							2		※ 6			◇	
		建築・土木特別実習	2			○								※ 7				

※1：○：必修、概▲：概論科目群選択必修、専共▲：専門共通科目群選択必修、▲：コース必修、無印：選択

※2：隔年開講科目

※3：「風力発電工学概論」は夏期休業期間に集中講義を実施する。

「インターンシップ」は3年次の夏期休業期間中に実施する。

※4：単位の認定は別表の基準による。

※5：◇は、教職課程関係科目を示す。詳細は、「教職課程」の項目を参照すること。

※6：土木工学コース専門科目

※7：認定科目

2 - 5. 資格について

・ 建築士

建築学コースを卒業し、表2 - 4に示す指定科目の単位を修得することにより、1 級建築士、2 級建築士、木造建築士の受験資格を得ることができる。

(1) 1 級建築士

「指定科目の分類」①～⑨についての「1 級建築士 要件」に示す単位数を取得した上で、全分類から40単位以上を修得することにより、卒業後直ちに受験資格が得られる。なお、資格取得のための登録には、修得した単位数に応じた実務経験が必要となる。

(2) 2 級建築士、木造建築士

「指定科目の分類」①～⑨についての「2 級建築士 要件、木造建築士 要件」に示す単位数を修得した場合、卒業後直ちに受験資格が得られる。なお、資格取得のための登録には、修得した単位数に応じた実務経験が必要となる。

表2 - 4 建築士受験に必要な国土交通大臣の指定する建築に関する科目（指定科目）

指定科目の分類	授業科目名	必修選択	単位数	配置学年	1 級建築士 要件		2 級建築士 要件 木造建築士 要件	
① 建築設計製図	建築基礎製図	選択	1	1	7 単位以上		3 単位以上	
	建築設計製図Ⅰ	必修	2	2				
	建築設計製図Ⅱ		2	2				
	建築設計製図Ⅲ		2	3				
	構造製図	選択	2	4				
	施工製図		2	4				
	設備製図		2	4				
	建築表現基礎		2	2				
② 建築計画	建築計画Ⅰ	必修	2	2	7 単位以上		2 単位以上	
	建築計画Ⅱ	選択	2	2				
	歴史意匠		2	2				
	住居計画		2	2				
	都市設計		2	3				
③ 建築環境工学	建築環境学Ⅰ	必修	2	2	2 単位以上			
	建築環境学Ⅱ	選択	2	3				
	環境デザイン学		2	3				
④ 建築設備	建築設備	必修	2	2	2 単位以上			
⑤ 構造力学	構造力学Ⅰ	必修	3	2	4 単位以上			
	構造力学Ⅱ		3	2				
	建築構造力学	選択	2	3				
⑥ 建築一般構造	鉄筋コンクリート構造	選択	2	3	3 単位以上		3 単位以上	
	鉄骨構造		2	3				
	木質構造		2	3				
	防災工学		2	3				
	建築基礎構造		2	3				
⑦ 建築材料	建築材料基礎	必修	2	2	2 単位以上			
	建築材料	選択	2	3				
⑧ 建築生産	建築施工	必修	2	2	2 単位以上		1 単位以上	
⑨ 建築法規	建築法規	選択	2	2	1 単位以上		1 単位以上	
⑩ その他	建築・土木概論	選択必修	2	1				
	測量Ⅰ	選択	2	2				
	測量Ⅱ		2	2				
	測量実習Ⅰ		2	3				
	建築実験Ⅰ		2	3				
	建築実験Ⅱ		2	3				
	福祉環境学		2	3				
	建築設計製図Ⅳ		2	3				
	建築数値解析		2	3				
受験資格に必要な単位数					40単位以上		20単位以上	
登録に必要な実務経験の年数 (試験合格前後の実務経験の合計)					60単位以上	2年	40単位以上	0年
					50単位以上	3年	30単位以上	1年
					40単位以上	4年	20単位以上	2年

・ 建築施工管理技士

建設業法により、建築施工管理技士の取得には一次検定と二次検定の両方に合格する必要がある。2級建築施工管理技士の一次検定は試験実施年度に満17歳以上、1級建築施工管理技士の一次検定は試験実施年度に満19歳以上の者が受験できる。合格した場合、それぞれ2級建築施工管理技士補、1級建築施工管理技士補を取得できる。

なお、二次検定の受験資格を得るためには、卒業後、2級建築施工管理技士は実務経験1年以上、1級建築施工管理技士は実務経験3年以上（「指導監督の実務経験」を1年以上含む）が必要になる。

・ 商業施設士（補）

建築学コースのカリキュラムは、商業施設士（補）資格制度に係る商業施設関連課程に認定されており、指定された教科目の単位を修得すれば、在学時に商業施設士（補）の受験資格が得られる。

・ 福祉住環境コーディネーター

福祉環境コーディネーター（2級、3級）は、在学時に受験することができる。建築学コースの分野専門科目として設置されている「福祉環境学」は、資格取得の支援関係科目である。

《土木工学コース》

3 - 1. コースの概要

土木工学コースは、構造力学、水理学、土質力学、土木計画、コンクリート材料、鉄筋コンクリート構造などの土木工学に関する専門知識の修得や、測量、施工管理など実務に応用する技術を修得し、地方産業に貢献できる人材として必要な能力を養う。また地域活動や情報収集を通して、土木工学の知識を統合する能力や、実験・実習を計画的に行い、その結果を解析・整理し、まとめる能力を養う。

なお、本コースは資格取得を推奨しており、カリキュラムに必要な科目が配置されている。

3 - 2. 卒業要件

卒業要件として、教養科目32単位以上、専門科目80単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。卒業要件に関する内訳を、表3 - 1 と表3 - 2 に示す。

表3 - 1 教養科目の卒業要件

区分	卒業要件単位数	分野	内 訳 等
教 養 科 目	4 単位以上	建学の精神に関わる科目	
	8 単位以上	人文・社会科学	
	8 単位以上	自然科学	
	10単位以上	外国語	英語8単位以上を含む10単位以上。但し留学生は以下の要件とする。 「中級」：日本語4単位以上、英語4単位以上を含む計10単位以上※ 「初級」：日本語6単位以上、英語2単位以上を含む計10単位以上※
	2 単位以上	健康・スポーツ科学	2単位のうち1単位は、実習科目である健康スポーツI・II・III・IVから修得が必要
	－	海外研修	
	－	教養ゼミ	

※日本語初級者と日本語中級者の判別は次を目安とする。

中級：日本語能力試験のN1を取得、または日本留学試験の日本語の試験で「読解・聴解・聴読解」が300点以上かつ「記述」が40点以上

初級：上の条件を満たさない場合

表3-2 専門科目の卒業要件（土木工学コース）

分 野 等		要 件 単位数	科 目 の 内 訳 等				
			コース摘要	要 件 単位数	科 目 名	単位数	配置 年次
専 門 科 目 計 80 単 位 以 上	概論科目群	4 単 位 以 上	概論科目群 選択必修科目	2 単位 以 上	創生工学概論	2	1 前
					建築・土木概論	2	1 後
			概論科目群から自由選択				
	専門共通科目群	15 単 位 以 上	専門共通科目群 選択必修科目	2 単位 以 上	コンピュータリテラシー	2	1 前
					コンピュータサイエンス入門	2	1 後
			専門共通科目群 必修科目	10 単 位	課題研究	2	3 後
					卒業研究 A	4	4 前
					卒業研究 B	4	4 後
			専門共通科目群から自由選択				
	分野、コース専門科目 (他分野の専門科目を含む)		コース必修科目	14科目 31単位	構造力学Ⅰ	3	2 前
					水理学Ⅰ	3	2 前
					測量Ⅰ	2	2 前
					構造力学Ⅱ	3	2 後
					土質力学	3	2 後
					水理学Ⅱ	2	2 後
					コンクリート材料	2	2 後
					土木計画	2	2 後
					数値処理	1	2 後
					測量実習Ⅰ	2	3 前
					鉄筋コンクリート構造	2	3 前
					地盤工学	2	3 前
					土木応用数学	2	3 前
					交通計画	2	3 後
			専門科目からの自由選択				

3-3. 卒業研究着手条件

卒業研究A及び卒業研究Bを履修するためには、卒業に必要な科目に関して、以下の項目を満足しなければならない。なお、編入生、転入生については、別に定める。

- (1) 教養科目を24単位以上修得していること。
- (2) 専門科目を64単位以上修得していること。
- (3) 専門共通科目から、「課題研究」を修得していること。
- (4) 教養科目と専門科目を合計して98単位以上修得していること。

カリキュラムマップ

建築・土木分野専門科目(土木工学コース)

概論科目	1年後期		2年前期		2年後期		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期	
	1年前期													
	創生工学概論	機械概論												
		電気電子概論												
		システム情報概論												
		建築・土木概論												
専門共通科目	フレンジュマンゼミ(1)													
	コンピュータリテラシー	コンピュータサイエンス入門												
	風力発電工学概論(1)													
分野専門科目 (土木工学コース)														
(総合科目)														

必修科目

選択必修科目

選択科目

()内は単位数記載のない科目は2単位

学修・教育目標と科目の関係
建築・土木分野専門科目(土木工学コース)

学修・教育目標	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
① 幅広い視野と技術者倫理の涵養	創生工学概論 風力発電工学概論 システム情報概論 建築・土木概論	機械概論 電気電子概論 システム情報概論 建築・土木概論			技術者倫理 情報化社会と情報倫理	知的財産関係法規		必修科目 選択必修科目 選択科目
② コミュニケーション能力および表現力の涵養			土木基礎実験		測量実習I コンクリート実験 キャリアデザインI	測量実習II 水理・土質実験 土木設計製図 建築・土木特別実習 キャリアデザインII	卒業研究A 卒業研究B	
③ 自然科学の理解	コンピュータリテラシー コンピュータインテンス入門	Webデザイン 応用物理学I 応用物理学II 応用数学I 応用数学II						
④ 専門知識の確実な修得と実務に適用できる能力の修得		水理学I 水理学II 土質力学 土木計画 構造力学I 構造力学II コンクリート材料 測量I 測量II			地盤工学 道路工学 土木構造力学 鉄筋コンクリート構造 土木施工 土木法規 土木応用数学	上下水道工学 交通計画		
⑤ 積極性と自己学修の習慣	フレッシュマンゼミ	水理学I 構造力学I 水理学II 構造力学II 数値処理				GIS	土木CAD 卒業研究A 卒業研究B	
⑥ 知識を統合し計画的に作業を進める能力の育成		地域DX化教育プロジェクトI 地域DX化教育プロジェクトII 地域DX化教育プロジェクトIII			インターンシップ 地域DX化教育プロジェクトIV	課題研究	卒業研究A 卒業研究B	

区 分	分 野	授 業 科 目	単 位 数	授業形態			年次及び週授業時間数								摘 要 ※1	教職課程※4		
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次					
				講 義	演 習	実験 実習	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
分 野 <																		

※1：○：必修、概▲：概論科目群選択必修、専共▲：専門共通科目群選択必修、▲：コース必修、無印：選択

※2：隔年開講科目

※3：「風力発電工学概論」は夏期休業期間に集中講義を実施する。

「インターンシップ」は、3年次の夏期休業期間中に実施する。

※4：単位の認定は別表の基準による。

※5：◇は、教職課程関係科目を示す。詳細は、「教職課程」の項目を参照すること。

※6：建築学コース専門科目

※7：認定科目

3 - 5. 資格について

・測量士、測量士補

測量法により、卒業要件に加えて「測量Ⅱ」および「測量実習Ⅱ」を修得した卒業生は測量士補の、卒業後1年以上の測量の実務経験で測量士の、それぞれ無試験登録申請資格が得られる。なお、測量士、測量士補試験は年齢や学歴、実務経験などに関係なく受験できる。

・1級土木施工管理技士、2級土木施工管理技士

建設業法により、1級土木施工管理技士及び2級土木施工管理技士の第二次検定は、第一次検定合格後の一定期間の実務経験などで、それぞれ受験資格が得られる。なお1級土木施工管理技士に関しては、19歳以上（受検年度末時点）、2級土木施工管理技士に関しては、17歳以上（受検年度末時点）の者であれば第一次検定を受験することができる。